

たのしかったしようこ

おおすみ
大隅 栄太郎

今日もまた、ぼくは黒くなった。かおもズボンもめがねも黒い。お母さんおこるかな？

「ただいまー!!」

といえにかえると、げんかんでお母さんは、

「なにがあった？」

と、すこしおこったかおで言う。三日に一回はおこっている。そしてぼくは、そのままおふろにつれていかれる。

ぼくは外であそぶのが大すぎだ。学校からかえたら、いつも友だちと公園であそぶ。おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、サッカー、ドッジボール、虫さがし、がけすべり、いろんなあそびがある。とくに虫さがしが好きだ。木のほうで土をほったり、ゆびであなをあけてみると、見たことのない虫が出てくるからおもしろい。

むちゅうになって土のついた手であせをふくから、ぼくは全しん黒くなっていく。

お母さんがある日、

「えいちゃんのおふく、あらうのたいへん。」

と言った。ぼくはわるいことをしたと思って、

「ごめんさい。」

と言った。そしたらお母さんはすこしかなしそうなかおで、

「ごめんね。ちがうんだよ。」

と言いながら、手をぎゅつとにぎってくれた。それから、

「えいちゃんにできて、お母さんにできないこと。それはね、体中にしぜんのおいのおりをつけて、思いっきり外であそぶことだよ。ちよつとوراやましいな。」

と言った。

ぼくは、お母さんもあそべばいいのと思った。そして、お母さんにもできないことがあるんだなと、びつくりした。

「ふくが黒いのは、えいちゃんがあつたのしかったしようこ。けがだけはしないで。毎日元氣にかえつておいで。」

と、お母さんがわらった。

お母さんのわらったかおを見て、ぼくはすこし泣きそうになった。なぜかという、おこられなくてホツとしたから。そして、これからも公園で思いっきりあそべるとわかったから。でも一ばんのりゆうは、ありがとうの氣もちがあふれてきたからだと思ふ。

おふろからあがると、バケツの水につけたぼくのふくと、ピカピカにみがいたぼくのめがねがあつた。

いつもちゃんとつたえられなから、ここで言うよ。お母さん、いつもふくをきれいにしてくれてありがとう。ゴシゴシするから、手がカサカサするって言つたの、聞いてたよ。これからは、ぼくもあらうの手つだうからね。

今日もまた、ぼくは黒くなった。かおもズボンもめがねも黒い。お母さんに、今日たのしかった話を、聞かせてあげよう。